

ひめじウェルカム21
姫路城探検隊

姫路城をはかってみれば



姫山原生林をゆく

2世紀まであと「500日」となった8月20日（金）、第2回「姫路城探検隊」は親子約50名の参加をえて、姫山原生林の探検を実施した。姫山原生林では、築城工以降は大きな造作が行なわれていないことから、その当時の植生を残していることで知られる。そして季節は夏、それも数日前まで雨だったことから、生命力溢れる草木は繁茂し、まるで敵を防ぐ逆茂木のごとくであった。それでも、「探検隊」はやぶ蚊の襲来をものともせず、林の中を進むのであった。

林の中では、日常あまり見掛けない植物や、城の施設では羽柴時代の古い石垣などを見学することができた。また、内堀へ落ち込む斜面をよく観察すると、小さなテラス状の削平地がいくつか見られた。これは、もしかすると羽柴時代以前の姫山にあった城郭の遺構を思わせた。

原生林といっても、北腰曲輪や西の丸の背後にあたる個所では、石垣を築くために設けられた平場が武者走りとなって残っており、それが通路となるので意外と足場は悪くない。でも、ゴミで埋もれたところはちょっと危ない。

羽柴・池田・本多、三代にわたる石垣が、原生林の奥で城の守りを固めていた。

鷲山口の門跡から原生林に入り、八天堂旧社地のところに抜けて、原生林の探検は終了。こんどは備前丸に上がり、そこで次の作業だ。「探検隊員」にしてもらったのは、姫路城の測量である。もちろん正確な数値が、測量機材もない状況でわかるとは思っていない。それでも、自分の身体や簡単な道具で実測値に近い数値を求めることができるのである。

まずは、歩測と目測で石垣の幅と高さを測る。いい加減なように思われるが、これが意外と誤差1m以内でおさまってしまうことがある（勿論、測量者の測り方によるが）。石垣の勾配を無視すれば、石垣の面積が求められる。

そして、もう少し「高度さ」を求める隊員には、直角二等辺三角形を使った方法で石垣の高さを測ってもらった。果たして、その成果は...



直角二等辺三角形を利用した天守台南面の石垣測量。照準を垂直はちゃんととれているかな。

(姫路城備前丸で)



石垣の幅は、歩測で測量。天守台の下は、平坦になっているので、測りやすい。自分の1歩の長さは、どれくらいの長さになるのか、調べておこう。

(姫路城備前丸で)



「城踏」の様子